



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〈第九五号〉

小雪 十一月二二日



蛇紋岩

毎年秋に開かれる奈良国立博物館の正倉院展。古代のお宝に風を通す「曝涼」の際にその一部が公開されるのですが、二十四節気というと、霜降から立冬の間にあたります。ちょうど湿気も低く、からりとした秋晴れが続く頃だからでしょう。

今年は正倉院宝物を代表する五弦琵琶などが公開される中で、気になるものを見つけました。「青斑石鼈合子」というスッポン形の小さな石の容器です。黒つぼくで光沢のある石は蛇紋岩。内宮前にそびえる朝熊ヶ岳は、

実はこの蛇紋岩質の土壌が特徴だったからです。蛇紋岩は緑から黒色の緻密な岩石で、蛇のような模様があることからこの名があります。またマグネシウムを多く含むため、特徴的な植生が見られますが、登山者にとってはちよつとやっかいな石でもあります。表面が濡れるとヌルヌルとして滑りやすくなるからです。以前、鳥羽側から登った奥河内谷には、この蛇紋岩が多く、滑らないように苦心した覚えがあります。それだけに、室内装飾にも使われる蛇紋岩ですが、まさか、正倉院にも納められているとは驚きました。

正倉院には何点か蛇紋岩製の品々があるのですが、いずれも残念ながら国内ではなく、七世紀後半から八世紀前半の舶来品ではないかと考えられています。中国では石英や大理石などとともに美しい玉として扱われていました。今回展示されているスッポン形の容器も不老長寿の仙薬を入れたとも言われています。

朝熊ヶ岳の蛇紋岩も、どこかで宝物の器になっているかもしれない、そんなロマンを感じさせてくれました。

文 千種清美

